

ほのほのだよ

～童話作家・浜田広介（廣介）さんの絵本を紹介します～

山形県高畠町の童話作家で「日本のアンデルセン」とも呼ばれています。作家人生 50 余年の間に、約 1000 編もの童話や童謡を世に送り出したそうです。代表作品として「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」などがあります。この童話は相手を思いやる優しさが溢れており、子どもだけでなく大人の方にも手に取って頂きたい作品です。

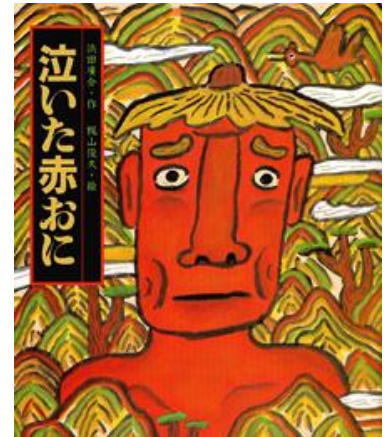
「泣いた赤おに」

出版社：偕成社

浜田 廣介 作・梶山 俊夫 絵

いくつか「泣いた赤おに」の出版本はありますが、こちらの本は、原作全文を載せています。赤おにと青おにの心情を豊かな言葉で表現され、読み終わった後にはせつなさが残るお話です。

（全国学校図書館協議会剪定・日本図書館協議会選定）



「りゅうのめのなみだ」

出版社：偕成社

浜田 広介 作・いわさき ちひろ 絵

人々に嫌われていた竜に同情した少年が、「竜がかわいそう」と訴えます。「おかしな子だよ」「ふしぎな子だね」と周りの人から非難を受けても、少年は山の谷間の竜を訪ねていく事にします。少年の愛や勇気に触れ、相手を思いやり、信頼関係の大切さを改めて感じるお話です。



「むく鳥のゆめ」

出版社：集英社

浜田 廣介 作・網中 いづる 絵

こちらの本も、いくつか出版本はありますが、原作全文を載せています。母鳥を待ち続けるむく鳥の子ども。母の面影をつなぎとめるように一枚の葉を枝に結びつけます。雪の日の夜に見たはかない夢。親子の絆や子どもの成長が切なく描かれています。



